



いまどきの中学生って・・・

かつて、中学校で生徒指導上の様々な問題があり、社会問題となった時代がありました。たとえば、1980 年前半のころは「校内暴力」が多発していました。このころ、いわゆる「不良」と呼ばれた生徒たちがいました。



でも、今は、そのような姿を見かけなくなりました。少年補導委員（ちくま青パト隊）も、「非行」を未然に防ぐ声かけをすることが活動の一つですが、そんな心配をすることもほとんどありません。とても素直で、いい子に見える今の中学生。では、いまどきの中学生はどんな子どもたちなのでしょう。



千曲市の中学生の様子は 2・3 ページへ！



地域と児童館

更級児童館長 鹿田かほり

朝、子どもたちの元気な声が聞こえてきます。『こどもまんなか社会』という言葉をご存じですか？千曲市でも二〇二四年に「こどもまんなか」宣言が出されました。社会の目指すものの中に「子どもの健全な成長の支援」があり、児童館では遊びや学びを通じて、子どもの生きる力を育む機会を提供しています。

当館には老人コミュニティセンターが併設されており、子どもたちは、その利用者の皆さんと多様な体験をすることができます。今年は「むつみ会」と「トウインクルベル」の皆さんにお越しいただき、踊りや演奏で創造性や感受性を高めました。定期的に來て下さる学習や将棋ボランティアの方との交流も、子どもたちはとても楽しみにしています。

他にも、河川敷でのさつま芋作りや「かけはしの会」の皆さんによる食育教育、更級郵便局主催の絵手紙教室もあり、自然や季節を感じることができます。また、環境整備に來てくださる「たんぼの会」の方、下校時に付き添ってくれる小学校のボランティアの方や見守り隊の方がいらっしやいます。そのおかげで、子どもたちは毎日整った環境で気持ちよく、また安心して過ごせることも忘れてはなりません。

安心と言えば「地域で守るこどもの安心安全」も目指すものの一つに掲げられています。夕暮れ時、こどもが一人で田んぼのあぜ道で遊んでいれば、わたしたちは声をかけます。犬の散歩中の方や近所の方がその子を気にかけている様子も伺えます。その子は何人の大人の目に見守られてお家に帰ったのでしょうか。それこそ地域ぐるみの子育てであり、その多々ある中の一つが「児童館」の位置づけなのだと感じています。

第 3 日曜日は家族ふれあう「家庭の日」 増やそう会話、つくろう思い出！

— 小遣いを与える時にはルールもいっしょ —

変わってきている 中学校や生徒たち

少年補導委員（ちくま青パト隊）は、現代の子どもたちの様子を知るために、中学校での授業参観、部活参観、安全指導への協力などを行っています。そのたび、変わってきている今の中学校の様子に驚いています。

令和の時代、今どきの中学生はどんな様子なのか、以前と比べてどんな変化があるのか、どんな課題があるのか、千曲市の将来を担う中学生に期待することなど、千曲市校長会長（屋代中学校校長）で、千曲市社会教育委員でもある柳澤正寿先生に、インタビューしました。

Q 今の千曲市の中学生について教えてください。

A 今の子どもたちは、落ち着いて学校生活を送っている生徒が多いと思います。かつて社会問題として取り上げられたような喫煙や飲酒、対教師や生徒間の暴力、授業中の立ち歩きなどの反社会的な行為はほぼ見られません。市内どの中学校も、学習や生徒会活動、部活動（クラブ）などにしっかりと取り組み、中学生らしい落ち着いた学校生活を送っています。



Q ちくま青パト隊のみなさんは、授業参観をすると、自分のころと大きく変わっていることにとても驚きますが、具体的にどんなことが変わってきているのですか？

A 授業では、1人1台のパソコンをノート代わりに使うことが、当たり前になり、黒板だけでなく、パソコンを使った意見共有なども行われています。文化祭などでは、動画を使ったり、プレゼンテーションを行ったりして、私たち以上にパソコンの機能を使いこなしています。家庭学習でもパソコンを持ち帰り、授業のまとめや発展学習を行って、先生に送信するということが行われています。宿題も、以前は、漢字・数学・英語の1ページの提出ノートと生活記録が定番でしたが、今は、パソコンも活用しながら家庭でも授業の振り返りをしたり、さらに疑問に思ったことを調べたりするなど、自主的な家庭学習に転換を図っています。



Q 制服も変わってきていますね。

A これまで「女子はセーラー服・スカート、男子は詰襟・学生ズボン」という制服でした。しかし、今は、からだの性（生物学的な性）とこころの性（性自認）と好きになる性（性的指向）が異なる人がおよそ1割いるといわれ、単純に男・女と分けることができない「多様な性」の時代といわれています。屋代中でも、4年前から「多様な性」に対応できる「ジェンダーレス制服」を採用しています。上着は、男女同じデザインのジャケットで、左前、右前もボタンの位置で交換することができます。ネクタイとリボン、スカートとズボンも自分の好みで選ぶことができます。

市内の中学校でもジェンダーレス制服を採用する学校が増えてきています。

Q 部活動の地域展開も進んでいるそうですが。

A 少子化で学校ごとの部活動が存続できないことや、教員の働き方改革推進に向けて、国の方針で、学校ごとに行っていた部活動を地域に移行する部活動の地域展開を進めています。千曲市・坂城町では、県内の自治体に先駆けて「千曲坂城クラブ」を立ち上げました。現在は、運動系が13、文化芸術系が5の全18の専門部が活動を行い、来年度からは、平日も休日もすべてクラブの活動となります。指導者や財源の確保、会費や学校間移動の保護者負担軽減などの問題はありますが、これまで学校単独ではできなかったことができるようになったり、他校の生徒と一緒に活動するようになったりして、多くの生徒が自分の好きなスポーツや文化芸術活動に取り組めるような環境づくりが進んでいます。



Q では、今の千曲市の中学生の課題について教えてください。

A 小学生もそうですが、友達と群れて遊ぶことが減って、外遊びをしない子が増えているように思います。人や社会とのつながりが薄れ、挨拶も自分から進んでできる子が減っているように感じています。学校では、不登校気味の生徒が増えているのが悩みの種です。千曲市では、中学校ごとに「教育支援センター」があり、教室に入りにくい生徒の居場所の一つとして活用できる環境を整えていただいているのはありがたいです。また、近年、スマホ・パソコンによる悪口の書き込みや仲間外しなどネットトラブルも起きていることも課題です。これらは、学校だけでなく、家庭や地域と一緒に考え、対応したいことです。



Q 千曲市の中学生にどんなことを期待していますか。

A 一人一人が自分のよさを生かしながら、社会に役立つ人になって欲しいと願っています。そのために、中学生の時にしかできないことに対して、積極的にチャレンジしてほしいと思います。多少の失敗も自分の力で乗り越えることができる、心身ともにたくましい人になってほしいと願っています。

少子化は千曲市でも進んでおり、今から20年前（平成17年）に1951人だった千曲市4校の中学生も平成27年には1747人、今年令和7年には、1374人と、20年間で7割にまで減っています。今後も減少が続くようです。

子どもたちは、地域の宝です。この子どもたちが健全に育っていくように、少年補導委員（ちくま青パト隊）も温かなまなざしで、活動を続けていきます。



～わたしのゆめ～



千曲市で学び、育っている子ども達が、どんな夢をもち、どのように立ち向かっていこうとしているかを紹介します。

「将来の夢」

五加小学校

6年

島田 羽菜

私の将来の夢は、花火師です。家族で花火大会に行ったのがきっかけです。たくさんの人が集まって空を見上げている光景も私は好きです。花火が打ち上がるたびにたくさんの人が歓声を上げていて、そのたびに私の心もワクワクしました。

そのとき、この綺麗な花火を作っている人はどんな人なのだろうと、花火師という仕事に興味を持ちました。調べてみると、花火師はただ花火を作って打ち上げることをしているのではなく、色や形、音楽との合わせ方まで、いろいろな工夫をしていることがわかりました。

一瞬で終わってしまう花火だからこそ、沢山の人の心に残るように一つ一つ心を込めて作っているんだと知って、私もそんな仕事がしたいと思いました。

「自分の夢」

八幡小学校

6年

金児 杏樹

私の将来の夢は助産師になることです。きっかけは、ドラマで、助産師さんが妊婦さんに優しい言葉をかけ、妊婦さんがその言葉に助けられているのを見たことです。「絶対に大変だと思うけどいい仕事だなあ」と思いました。

助産師になるために私は今、どんな勉強をしたらいいのか、どのようなお仕事なのかなどをたくさん調べています。調べるのもけっこう大変だけど、それよりも、助産師になりたいという思いのほうが強いので、調べるのが楽しいです。友達に対する言葉も意識しています。私の言葉で妊婦さんが少しでも助けになったと思ってもらえるような助産師さんになることを目指しています。

「僕のやりたいこと」

戸倉上山田中学校

1年

有賀 大和

僕はみんなを笑わせることが好きで、小学生の頃の夢はお笑い YouTuber でした。みんなの笑顔のために様々なことに挑戦をしました。委員会活動や応援団、ピアノの伴奏などできる限り挑戦してみましたが、つい頑張りすぎて疲れてしまったこともありました。そんなときに出会った本があります。「きみのことがだいすき」という絵本です。その本は自分のこと大切に、そして他の人にも優しくしたくなる内容で、心が温まりました。本を読んで再び、みんなを笑顔にしたいと強く思ったのと同時に自分のことを大切にすることの重要性も感じました。

今の夢ははっきりしませんが、みんなが楽しく、優しくいられる世界になるために、自分には何ができるかこれからも考えていきたいです。

教育相談・生活相談のご案内



千曲市では、次のような相談窓口を開いています。

ちょっとした不安、疑問、お気軽にお電話ください。秘密は守られます。

児童・生徒の教育や発達について
＜市総合教育センター＞

教育相談センター

電話相談・面接相談 273-5105

平日 9:00～17:00

青少年の生活について
＜千曲市役所＞

少年育成センター（生涯学習課内）

電話 273-1111（内線 4114）

E-mail: youth@city.chikuma.lg.jp